



定休刊日 告休日 部一 部二 部三 部四 部五 部六 部七 部八 部九 部十 部十一 部十二 部十三 部十四 部十五 部十六 部十七 部十八 部十九 部二十 部二十一 部二十二 部二十三 部二十四 部二十五 部二十六 部二十七 部二十八 部二十九 部三十 部三十一 部三十二 部三十三 部三十四 部三十五 部三十六 部三十七 部三十八 部三十九 部四十 部四十一 部四十二 部四十三 部四十四 部四十五 部四十六 部四十七 部四十八 部四十九 部五十 部五十一 部五十二 部五十三 部五十四 部五十五 部五十六 部五十七 部五十八 部五十九 部六十 部六十一 部六十二 部六十三 部六十四 部六十五 部六十六 部六十七 部六十八 部六十九 部七十 部七十一 部七十二 部七十三 部七十四 部七十五 部七十六 部七十七 部七十八 部七十九 部八十 部八十一 部八十二 部八十三 部八十四 部八十五 部八十六 部八十七 部八十八 部八十九 部九十 部九十一 部九十二 部九十三 部九十四 部九十五 部九十六 部九十七 部九十八 部九十九 部一百

萍生山房句抄(二)

渡邊何鳴

▽秋風
 ○秋風や松にからみし蔦漆
 ○秋風にさらりと衣たみけり
 ○秋風に失業の子となりしかな
 ○秋風に未だ癒えずと書きにより
 ○秋風に實萩ばかりの古利かな
 ○傾きしまの戸うちぬ秋の風
 ○秋風や葛飾の丘背まろく
 ○秋風や薬に染みし消毒衣
 ○秋風や病みて胡弓に親しめる
 ○眉よせて淋しき顔や秋の風
 ○秋風にもみすてられし屑かな
 ○いさゝかのこ腹立たし秋の風
 ○秋風に佛怒りし眼かな
 ○秋風や墓新らしき十字標
 ▽萩
 ○萩亂れて松をたきし風雨かな
 ○萩叢の亂れてぢえず露の

石

○うすくと日のあたりある實萩かな
 ○こぼれ萩小さき渦に吸はれけり
 ○石にあたる薄日支えし野萩かな
 ○こぼれ萩吸ひつく露の草履かな
 ○こぼれ萩種せきとめてあふれけり
 ○白萩の月にさらせし木履かな
 ○萩寺の萩にひらきし句會かな
 △名月
 ○名月や門のほとりの萩おどろ
 ○名月やこまくとわる萩の露
 ○名月や草に敷きたる花菖
 ○名月や柱に寄りて句座の人
 ○名月に寝そびれし兒を抱き出づ
 ▽秋燈
 ○秋燈に生葉の針運びけり
 ○秋燈がけて腹這ひ讀みし疊かな
 ○ともしさにあえて生くべし秋燈

御魂に捧ぐ

吉野かほる

おゝ如何に御身は斯くも老ひしぞ、黒髪は艶褪せしは若き血汐の流れ絶えぬに既に斯くも考ひしは何故ぞ
 曉の曙光は我等が希望、見よ曉の清き光に、黒き闇の汚れは薄らぎ、魔の暗はぬぐひ去られぬ
 東空既に曙光さし 中天の雲曉の曙光に浴し 白く穢れなき雲は悠々 やがて清光は西空を掩はむ
 年若き御身は何故に斯くも老ひ果しぞ 御身の若き血汐は、かつては希望にかゝやきし瞳 いづこにぞ若き宿さむ
 御身は既に希望を失ひしか 光なき瞳は何處をぞ見む 病み疲れし肉體に死の影の宿すは、早や此世に希望を絶ちしか
 おゝ病み疲れし御身には見えざりしか 諦らめの姿哀れなる父を

おゝ聞えざりしか逝きし御身は、亡き魂の軀に縋り呼ぶ聲を、おゝそれ悲痛なる涙にむせび呼ぶ母の聲を
 おゝ逝きし御身の御魂よ何處 星か星ならいと強き光放てよ、あゝ今や語る術なし、近け近け安らかに眠れよ御魂

亡父塚本喜八儀

新盆に相當り候處故人の遺志により提灯其他供物等一切御辭送申上度乍失禮以紙上謹告仕り候也

平町新田町 塚本 保

亡父重雄儀新盆に相當り候へ共緊縮の折柄供養提灯並に供養料其他一切の御贈與を甚だ勝手釜敷儀へ共絶對御辭送申上候間不惡御承知被下度願上候

平町鍛冶町 酒井 一 郎

後見者 酒井 秀 治 郎

寶鐸院新盆に付ては時節柄提灯其他供物御遠慮申上候

平田町 森本 盛 一

誠晃院新盆に就いては時節柄提灯供物等御遠慮申上げます

赤井村 丹 吳 忠 雄

亡母の新盆に相當り候へ共時節柄提灯其他供物等一切御遠慮申上候

平長橋町 木田 喜 一郎

中村間 定期乗合自動車

福島自動車部内に營業所を置きました。御用の節は電話二三九番に願ひます (料金平利一 福島間片道一圓五十錢小人半額)

福中自動車部

チドリ自動車部 電話二三九番

中村 中村 木場自動車部内
 中村發、前六、三〇同八、三〇同二、三〇後二、三〇同四、三〇同六、三〇
 福島發、前六、〇〇同八、〇〇同二、〇〇後二、〇〇同四、〇〇同六、〇〇

亡子昌新盆の處時節柄提灯其他の御供物一切乍失禮御辭退申上候

平町三丁目 山田 勇 太郎

◆コークス大々の値下斷行

東京瓦斯コークス

◆一家ノ經濟ハ臺所カラ

經濟ナモノハアリマセン

◆配達迅速

電話二三七番

阿部石炭商店

平澤前 電話七六六番 水野水室コークス部

探訪ナセン 泥酔漢と巡査

クシヤミを
啜る初秋の
夜風に白い
キヤラコ
暖簾をへん
とヒラめ
かした此處
カフエー花
月の店內、

奇怪な「風評」果して眞疑如
何にと、胸トキめかしなが
ら落ち合つた同業四人「君
もか?」「君もか?」の一語
をエヘラ／＼の愛嬌

笑ひの

斯ふなつては我々四人一連
托生とチツプ代りに「又來
るヨ」の一語を置き來りし
て表へ出た、サアこれから
何處へ行く、死んだんなら
役場へ届が出て居る筈、是
れはこれから役場へ行つて
夫れらしい死亡届を物色し
て死やうと、既に表門を開
いた湯本町役場の裏手に廻
つて見たが宿直員は白河夜
舟の最中らしく、呼べと呼
べと返事がない、ヨク／＼

今夜は

「ダア」となつちまつたもの
である。斯ふなると人の體
も現金なもの、足が急に重
い夫れをメクラ減ツ法引き
すりながら「讀者にやあ此
苦心を買つて貰ひないんだ
」と涙聲、ヤットの串で湯
本驛迄たどり着いたが平行
の汽車は
手なミダシで特種を讀者の

前に提供出来るんだと思ひ
ば今夏一二回の海水浴で
薄皮の ムケかゝつ
て居る腕が夜鳴きせんばか
りにウナリに呻る、他の面
々何れも一騎當千の強武者
であるから正に意氣衝天の
猛勢當るべからざるものが
あつた、でも當らにや仕事
にならないから少し離れて
居るが八仙の入山探炭の病
院に攻め入らうと衆議一決
學校裏から暗い踏切を越え
尻ツビリ腰で坂を昇り詰め
病院の看護婦に案内されて
藥臭紛々たる室で宿直の醫
員に御面會、先程涼臺の噂
に聞いた九石飯場の高橋と
いふ坑夫の診斷書が死亡檢
査書の

有無を 尋ねて返答
如何にと待ち構へる、返答
の丁か半かに依つて「風評」
の見極めがつくのだ、宿直
醫員は親切にまた丁寧且
つノロ／＼と書類を調べて
居たが「どうも該當者があ
りません」と氣の毒顔、茲
に於てか淺野東朝、楢本東
日大竹いはらき、筆者の四
人重なり合つて將棋倒しに
「ダア」となつちまつたもの
である。斯ふなると人の體
も現金なもの、足が急に重
い夫れをメクラ減ツ法引き
すりながら「讀者にやあ此
苦心を買つて貰ひないんだ
」と涙聲、ヤットの串で湯
本驛迄たどり着いたが平行
の汽車は

平の理髮料金は 店の等級で區別

昨日の臨時總會に於て
投票の結果決定
五萬圓程度の
工費を削減
來月早々本會議
平水道擴張工事算更
中上水道擴張工事算更
正

（昨報）平町理髮組合の物議
解決に關する臨時總會は平
町會議室にて昨日午後二時
半から開會、鐵道關係の特
定理髮は従來宮川理髮店が
ら五名の理髮師が鐵道構内
に出張して居たのを一名と
爲し各店共通の散髮券を發
行する旨の署長案を示し組
合幹部は九月二日迄に夫々
意嚮を纏むべき事となり次
ぎの各店を等級別となし料
金を區別すべき件は無記名
に依つて可否を投票せしめ
た處州名の出席者中
可とする者廿名、否とす
る者九名、中立一名
にて可とする者が多数にて
料金を區別する事に決定、
續いて組合費の等級別負擔
は可廿五名、否五名の結果
を示したが等級別等は委員
の協議に依り是れも九月二
日迄に荒井署長の手許に回
答する事になつた

にギヤフン!
附言湯本のカフエー「花
月」に泥酔漢の狼藉のあ
つた事は事實だ、それが
平のカフエー「花月」の爆
発死と結び付いて一つの
「風評」を生み出したもの
である、我々はその「風
評」にあやつられてビー
ローの役廻りを演じた譯
である、而して我々は斯
場のビーローの役目を
決して輕しとして居ない

又もや双兒が三組 今度は赤井村で 同日同時刻頃に

先日は既記の如く石城郡小
川村に三組の双兒出生あつ
たが今度は隣村赤井村福島
炭礦坑夫長屋で吾鐵太郎方
で男の双生子、松本要太郎
長井三郎の兩家では女の双
兒を廿六日の同時刻頃に夫
々安産して母子共に健全で
あると

餌付けが悪い

昨日の鯉漁
縣水産試験場磐城丸鯉漁場
第十五航海は去る廿一日小
名濱港出帆して廿六日午後
歸港したが第一漁場にて二
千尾第二漁場にては五百尾
第三漁場にては五百尾を釣獲
した然し今年には各漁場共附
近一帯に亘つて魚群多きも
餌付け悪く餘り好結果は待
たない

平町 人事
△南 五 東京府南葛飾郡船橋市
△本武 長男敏雄
△堤の内 一七 小松初太郎長男誠
志
△田町 二六 増子富治三男秀雄
△鷹匠町 六 古波長之介長女チヨ
子
△五丁目 三 當時東京府南 師部
龜戸町職工酒井末三(二七) 西白
河郡三神村小林カヅ(二六)
△死亡
△立町 八 佐川五郎(六九)
△鍛冶町 二六 横山彌三(六六)
△新川 二九 當時石城郡上野野村
鈴木チヨ子(一七)
△紺屋町 一九 鈴木ヨシ(五九)

平越趣味界 熱は冷え気味

六七年前が全盛期
斯界で見免せぬ人
六七年前までは寫眞機全盛
時代であつたカチツといふ
ヤットの音にそのへんの青
年男女をわくつかせたもの
だがこの頃はそんな熱もさ
めてしまつて光陰會どころへ
やら僅かに石城寫友クラブ
がある云へば云へる状態
平町のカメラマンでは一般
アマチャリーの兩

腕前

花見や海水浴にばかり持
つて歩いたところ満足
なのは振れませんがから駄
目です、もとは年に四回
も展覽會を開いたものだ
がそのためにほとんどなに
努力したか分りません
と西村屋の旦那さんが帳場
の陰から話した通り……
夫れから田町の中島孟氏と

白土喜伯氏には大抵のアマ
チアが一度は洗禮を受け
て居る程平町の斯界には見
免せぬ人、刀圭界には明雲
堂の吉田さん、鎌田の金成
さん、大町の若松さん等
あるが仲町の二葉印刷所主
新田町の渡邊三益等は高級
品ない、

……腕前 である事を一
寸お知らせする、鐵道や郵
便局方面にもベスト型が大
いにはびこつてゐるさうだ
が、その神にもベストやコ
ダックは數へ切れぬ程愛し
てる人があるに違ひない。

顔面を粉砕

石城郡内郷村大字総警城炭
礦後山夫宮城縣栗原郡生れ
淺沼辰次郎(三)は廿八日午
後四時頃坑内で作業中上方
から滑走し來つたトロに衝
突顔面を粉砕瀕死の重傷を
負つた

平町 人事

△南 五 東京府南葛飾郡船橋市
△本武 長男敏雄
△堤の内 一七 小松初太郎長男誠
志
△田町 二六 増子富治三男秀雄
△鷹匠町 六 古波長之介長女チヨ
子
△五丁目 三 當時東京府南 師部
龜戸町職工酒井末三(二七) 西白
河郡三神村小林カヅ(二六)
△死亡
△立町 八 佐川五郎(六九)
△鍛冶町 二六 横山彌三(六六)
△新川 二九 當時石城郡上野野村
鈴木チヨ子(一七)
△紺屋町 一九 鈴木ヨシ(五九)



明日の予報 今晩も明日も南東の風曇天であるが天気よくなる模様

△前九・一〇 榮養料理 「平民的のメニュー」榮養研究所

△前九・三〇 子供の時間 吹奏樂 豊島園少年音楽隊 指揮久松鏡太郎

△前一〇・〇〇 修養講座 「國民飲料と文化」醫學博士諸岡存

△前一一・〇〇 講演「無限の軌道を歩む人」醫學博士木村直樹

△後〇・三〇「浪花節大會」筑紫市兵衛「東家小樂燕」「祐天吉松」「浪花亭一友」「新藤兄弟」「早川燕平」「義人と忠臣」木村重松「隅

田川譽の名馬」東家左樂遊 △後三・〇〇 運動競技 「三田稲野野球戦況」朝治神宮外苑野球場より中継 △後六・〇〇 子供の時間 お話「橋中佐」「内田靖一」 △後七・二五 「落語大會」

無限の軌道を歩む人

醫學博士 木村直樹

狂者の生活は私共の現實と空想の生活の間を縫ふて無限の軌道を走る慧星の様なもので總ての矛盾撞着におかまいなく宗教にも科學にも法律にも道徳にも超越して居ります、従つて

此處に 惨忍な犯罪も生れ思ひ切つた「グロテスク」な行爲も平氣で遂行されるのであります。身は窮屈な監禁室に閉ぢ込められて居ながらも有團のほころびからのぞいて居る綿くづを見ては無盡蔵の金貨の湧き出してくる口と思ひ最高幸福に陶酔して居る者襁褓を纏ひ髪を振り亂し鼻下に

一面「人間の幸福は其現實生活にあるのではなく現實の生活のあらゆる規範を脱した空想と幻想の中のみある」と言つた伊太利のピランデルロの詞をかりて言へば狂者の生活にも亦幸福な分子が含まれて居るのではないでせうか

落語の夕

帽子 柳家金語樓

出入の職人がお店で婚禮があるのを聞きに行くとホテルで式をするから紋代に袴をはいて帽子の一つもかぶつて来いと云ふ、そこで方々へ借り歩き、醫者の所へ行くと思者と違へられ占ひ者の所では亡者にまちがへられて易を立てられたりする、次に大家さんの所へ借りて行くの家賃の話ばかりしてゐる貸して呉れない、最後に隱居の家へ行きそこですつかり仕度揃ひのお店へ行つて見せると借りた帽子が馬鹿に大きいので皆んなが笑ふとその男「笑ひ事じやない、死ぬ苦しんで方々借り歩いてやつと四軒目で整つたのだ、若しこれが出来なければ、わつしは江戸を賣つて南洋へでも行くことと思ひました」と云ふ。まわりに居た者がそんなことで夜逃げをするとはお前さんもよっぽど頭が小さいねと云ふとその男、その代り帽子が大きい」

音曲

柳屋つばめ

一、手摺にもたれて化粧の水をどこへ捨てよか虫の聲 二、主が食すりや緞子の帯も曲げて世帯のたしにする 三、私しや深川貝殻育ち 新四、貝の柱に蠅の家根 仇な凌利と添ふよりも 矢張貴方のばかがよくい 四、主の来る夜は心で知れる 棚の達磨「餘り心嬉しさに棚の枕を一寸おろし

時計ながめて獨り言 小唄「川竹」川竹の浮名を流す鳥さへも番ひはなれぬおしどりの仲に立つ月すこ〜と別れの辛さ袖絞るほんに辛氣な事じやいな

吹き寄せ義太夫 春は花いざ見にごんせ東山 簞や〜簞はいらぬか椀竹を、竹に雀は植藁さんのご紋 紋は菊相九曜の星私しの父さん高瀬の船頭冬は寒むかろのう母さん いやだ〜よハイカラさんはいやだ頭の頂邊にさゞいのつば焼オ、なんて間がい〜んでせう 東雲のストライキさりとはい辛いわねとことおつしやいましたかね玉屑が取持つ縁かいな 互に顔見りや真黒毛のけ 私とお前は御蔵の米よいつかよに出てま〜となる蒸氣は出て行く

一冊の代金

御希望通りな 五冊の雑誌が 自由の讀める 川崎巡文庫 電話六三〇番 (申込次第規則書進呈)

眼鏡 蓄音器 トキハヤ 平町一丁目

第二回長期裁縫講習會

期間 九月一日ヨリ翌年四月末日迄 科目 裁縫を主とし希望により作法刺繍手藝を教授致します 會費 一ヶ月金壹圓 會場 平陽女學校 服裝 隨意であります 年令 制限ありません 入會 何時でも入會が出来ます 平陽女學校

平陽女學校

天瑞院新盆に相當仕候へ共時節柄提灯其他の供物一切御遠慮申上度く何卒惡からず御承知願上候 平町田町 松月堂 金子重次

亡妻新盆の處時節柄提灯其他の御供物一切乍失禮御辭退申上候

平町 市原卯太郎

吉田眼科病院 平紺屋町、電話六八番

漏れなく責任配布

折込は百枚に付十銭

食慾増進には
おいしい消化のよいパン
を召上れ

食パン 一斤 十六錢
味付パン 各一ツ 五錢

目丁四平
ヤトモツマ
番四一二話電

中製特印鶴



大鶴屋藥店

番四〇七話電 下園公町平

夏服

輕快で瀟洒な夏服の季節となりました。スマートな今年度の新製品が豊富に取揃ひました。

- ◇輕裝上衣 黒セル4・20ヨリ カシミヤ 10・00ヨリ
- ◇白直衣 1・60ヨリ
- ◇白づぼん .60ヨリ

平二あかや洋服店 電203

八月十日より九月十日まで
發賣記念景品付特賣

特製 **五色汁椀** 五個箱入金九十錢

御買上毎に(標準貴塗丸盆箱入一枚又)差上ます
(は錦繪付菓子器箱入一個)差上ます

何卒御来店下さいませ

平町一丁目 電話四〇五番

和久井屋漆器店

外科 専門線 ×
上田外科醫院

平町南町
電話一三九番

花柳病科 専門
木村外科醫院

入院自炊の便あり
平町五丁目橋際
電話三〇九番

御中元大賣出し

◇御贈答用品◇

- 敷布箱入... 五拾錢
- タオル箱入三本... 廿八錢
- ハンカチーフ箱入一打... 五拾五錢
- ゴルゲード石ケン... 七拾五錢
- 歌舞伎石ケン同... 三拾錢
- 玉の肌石ケン三ヶ入... 四拾五錢
- モリタヤ特製同... 四拾五錢
- 靴下箱入三足... 四拾錢
- 大人縮シヤツ... 二拾五錢

御進物に喜ばれる
モリタヤの商品券

5丁目 電353
モリタヤ洋品店

新築落成

双葉修齊女學校
長塚村電話一八番

種々体質
寒暖計
廣内藥局
電話四〇番

益

喫茶部新設

看護婦急派
の求めに應じます

平町南町
平看護婦會
電話三〇七番

理想的耐水耐熱接合劑
キングパスト

- ◎水か微温湯で溶せばすぐ使へる簡単な膠着劑
- ◎一名コナニカワ
- ◎四季を通じて一度ついたら膠着力は絶對的です
- ◎理想的完全耐水耐熱の可驚威力を發揮し防腐の効果著し

小野屋藥店
電話一四四番

棟岳院新盆に相當仕候へ共時節柄
提灯其他の供物一切御遠慮申上度
く何卒悪からず御承知願上候

平町一丁目 飯田近治

謹啓法授院新盆に相當り候へ共故人の遺志に依り提灯供物等一切乍失禮御辭退申上候 敬具

平町古鍛冶町
水野虎三郎

舊盆も近ずきました
提灯の御用意は
法名入提灯!!
岐阜提灯!!

安クテキレイナ

平町四丁目
スガノヤ提灯店
電話七一二番
改九五番